

6月7日告示、16日投票

沖縄県議選

予定候補者紹介

子どももの貧困をなくす

日本共産党

無料生活相談所を続けて24年、くらしの悩みなどを政治の場に届け、老朽化した県営住宅の改築や保証人制度の廃止、特別養護老人ホーム増設などを実現してきました。

相談で忘れられない言葉があります。「孫が歯が痛いと泣いていても病院に連れて行ってあげられない」。「子どもの貧困」にふれるなか、県に実態調査を実施させました。深刻な状況が

明らかになるなか、対策基金の設置や中学生までの子ども医療費無料化につなげました。玉城デニー県政のもと「子どもの貧困」は県政の最重要課題と位置付けられるまでになりました。

用。学童クラブの家賃補助や基金をいかした利用料助成を実現し、学童を変質させる指定管理化には、保護者とともにノーの声を上げています。

浦添市区（定数4）

ニシメ純恵 予定候補（72）現



【プロフィール】 琉球大学卒。沖縄合同法律事務所勤務を経て、浦添市議2期。現在県議4期目。

沖繩は、県内公立小中学校の教員定数に占める正規雇用の割合が全国平均を10ポイント下回り、教員不足につながっている構造的要因とみられます。「子どもたちが健やかに育つ環境を」と、臨時教員の正規雇用化を訴え、年齢制限撤廃や試験の一部免除を提案。正規率の改善へ県教育委員会の姿勢を転換させました。

学校制服の選択制や男女混合名簿の導入にも力を尽くし、ほとんどの学校が採用。学童クラブの家賃補助や基金をいかした利用料助成を実現し、学童を変質させる指定管理化には、保護者とともにノーの声を上げています。

浦添新軍港建設（浦添西海岸）への那覇軍港の「移設」には一貫して反対し、那覇軍港の無条件返還を訴え続けてきました。選挙は定数4を5人で争う見通し。前回擁立を見送った公明が議席奪取を狙っており、自民、維新を含めた軍港推進勢力の伸長を許さないためにも負けられない選挙です。「基地のない平和な沖縄のため、美（ちゅ）ら海の自然を埋め立てて基地を造らせるわけにはいかない」（しんぶん赤旗 2024年3月26日より）